

## 第4回 移動等円滑化評価会議 中国分科会 議事録(概要)

日時：令和4年7月13日(水) 14:00~16:05

場所：中国運輸局5階 会議室(※WEB形式(一部対面含む))

議事：(1)中国分科会の構成員について

(2)移動等円滑化の進捗状況

(3)移動等円滑化に関する取組事例の紹介

(4)事前アンケート等結果についての意見交換

(5)まとめ

---

●14:00 開会

●14:01 中国運輸局 交通政策部長 挨拶

●14:03 配布資料の確認

●14:06 座長挨拶、R3年度会議の振り返り

●14:08 議事(1)中国分科会の構成員について

中国運輸局 交通政策部 バリアフリー推進課 村田課長補佐

●14:09~14:28 議事(2)移動等円滑化の進捗状況

中国運輸局 交通政策部 バリアフリー推進課 丹下主任指導官

中国地方整備局 企画部企画課 高市課長補佐

中国地方整備局 建政部都市・住宅整備課 矢吹課長

●14:28~14:46 議事(3)移動等円滑化に関する取組事例の紹介

広島県 土木建築局 都市計画課 藤原主査

広島市 健康福祉局 健康福祉企画課 石井課長

広島市 道路交通局 都市交通部 福田交通対策課長

広島国際空港株式会社 中山運用本部長

●14:46~14:56 休憩

●14:56~16:05 議事(4)事前アンケート等結果についての意見交換

議事(5)まとめ

## 心のバリアフリー及びその他アンケート結果について意見交換（※敬称略）

### 【西日本旅客鉄道株式会社 広島支社 調査企画室長 左山】

- ・ 旅客支援、情報提供、教育訓練等をお客様視点で取り組み、実施。HPに掲載。
- ・ サービス介助士の資格取得を推進。（広島支社R3年度51名、R4年6月末178名取得済）
- ・ 社員の声掛け・見守りと併せ、お客様同士で助け合う「共助」を促進。

### 【一般社団法人中国旅客船協会 事務局次長 三好】

- ・ 瀬戸内海汽船(株)の船に新規バリアフリートイレ設置(自動ロック、緊急ブザー)。
- ・ 新たに女性用トイレにおむつ交換台を設置。

### 【広島国際空港株式会社 運用本部長 中山】

- ・ 案内所（各出発・到着ロビー）スタッフに障害者への対応を事前予測・フォローする教育を実施。サービス介助士の資格取得について今後検討。
- ・ 多機能トイレやEVホールに車いす・高齢者・内部障害者の優先利用ポスター掲示。
- ・ 案内所にコミュニケーション支援ボードを設置。

### 【中国ハイヤータクシー協会 : (欠席) 事務局代読】

- ・ 平成29年度からタクシー乗務員のためのユニバーサルドライバー研修を実施。令和3年度まで延べ回数30回、62社542名が受講し全員が資格取得。来年度以降も実施予定。

### 【島根県 : (欠席) 事務局代読】

- ・ 「あいサポート運動」を鳥取県と共同実施。あいサポート研修の参加者：累計6万人。あいサポート企業団体やあいサポートメッセンジャーの登録を推進。
- ・ ヘルプマークやヘルプカードの普及を進め、累計で3500個配布。

### 【岡山県 土木部 監理課 主任 田野】

- ・ 障害福祉課の取組事例を紹介。環境整備事業：相談窓口の設置、セミナー等に手話通訳者、要約筆記者を配備。
- ・ 普及啓発事業：あいサポート推進事業＝あいサポーターの養成や企業団体の認定。  
「心のバリアフリー」の支援事業＝啓発冊子の作成やポスター等の募集。

**【広島県 土木建築局 都市計画課 主査 藤原】**

- ・福祉局の取組み紹介。「あいサポート運動」：県内の学校や企業等に「出前講座」を実施。「あいサポートメッセンジャー」等の養成研修。
- ・障害者文化芸術推進事業：障害者の方が創作した「あいサポートアート展」や「あいサポートふれあいコンサート」を開催。心のバリアフリーを推進する推進員を設置。

**【山口県 福祉健康部 厚政課：（欠席）事務局代読】**

- ・あいサポート運動を推進。あいサポーター研修の実施（R3年度12回）、あいサポートメッセンジャー、サポーター研修の講師養成、サポート運動の普及啓発、若年層対象の共同イベント、サポート企業団体の認定（令和3年度末計245企業）等。
- ・ヘルプマークやヘルプカードを累計約4000個配布。（平成31年3月～令和4年3月末）
- ・地方新聞への記事掲載や、県政番組により県民の理解促進を図る。

**【広島市 健康福祉局 健康福祉企画課 課長 石井】**

- ・健康福祉局障害福祉課の取組紹介。
- ・「みんなのお店ひろしま」宣言制度：令和3年11月から障害者が安心してサービスを利用できるよう、積極的に環境整備等に取り組むことを宣言する事業者を募集。取組内容等を市のホームページで公表。令和4年6月末の宣言店舗は9店舗。
- ・毎年障害者差別解消法に関する講演会等を開催。（R3年度シンポジウム76名参加）

**【一般社団法人 広島県手をつなぐ育成会 副会長 春木】**

- ・各支部からの意見まとめ。日常生活において困ったこと（※ナンバーは資料記載）
  - ⑤特定の席に他の方が座っていてパニックになり、出発しないうちにバスを降りる事が何度もあった。⇒対応：運転手が優しく見守ってくれありがたかった。
  - ⑥障害特性でマスクが難しい方がバスに乗った際、運転手に理解されず本人がパニックを起こした。⇒対応：「マスクが利用できません」シールを着けた。
  - ⑦盲導犬ユーザーがタクシーを呼んだ際、乗車する直前に断られた。  
⇒対応：広島県からタクシー協会や県内行政機関に盲導犬理解について周知した。
- ・日常生活における良かったこと。
  - ①自閉症のこだわりで動けずバスから下りられない時、運転手から「ゆっくりでいいですよ」と声を掛けて頂き安心した。  
大型商業施設の「障害者用の登録制駐車場」が大変使いやすいという意見もある。
- ・啓発活動の取組みとして10年前から知的・発達障害の正しい理解を目的に会の有志で「知的障害疑似体験」を実施。幅広い年齢層の方約2万人が体験しリピーター増加。

**【広島難病団体連絡協議会 会長 西河内】**

- ・ヘルプパークの配付・啓発に取り組んで頂いているが、ただ配っているだけではダメで、一般市民の方がたの間にマークが定着しなければ何にもならない。
- ・バスや電車で啓発ステッカーを多く見る事は喜ばしいが、一般市民にマークが認識されていない。広島ではバスで譲ってもらえたが、路面電車で譲ってもらった経験がない。
- ・ヘルプマークの不正入手・使用の記事が新聞に載っていたが、不正利用の追及よりも、まずは一般市民にマークについて意識を持ってもらう方が大事である。

**【特定非営利活動法人 広島自閉症協会 事務局長 阿部】**

- ・支援の基本の1つは「見てわかりやすく伝える。」事である。聴覚過敏の方もおり、聞こえ方の違いもあるため、アナウンスだけでなく見てわかる表示があると良い。バス停では、電光表示や到着の見通しが持てる表示が増えてきた。これからも見てわかりやすい表示を広げて欲しい。
- ・突然の運休や事故の時も、状況と、どれだけ待てばいいのか、どこに行けばいいのかが表示で分かると落ち着いて行動できる人も多い。
- ・乗り過ごしたり、チャージがうまくできない等、想定外の状況により、普段できることもパニックになって困る事がある。
- ・「乗務員が寄り添い優しく対応する事で乗り越えられた」という声もあった。こうした積み重ねが公共交通を使う時の自信に繋がる。理解とサポートをお願いしたい。

**【一般社団法人 広島県ろうあ連盟 事務局長 大西】**

- ・JRの無人駅が増えている。緑の発売機になり有人発売所が閉まっている。オンラインでは伝わらないので駅員がいる時間を調べて買いに行き、駅の方に代わりに買って頂く。聞こえなくても買える機械を設置してほしい。
- ・広島市営（基町）の駐車場にある、手帳を提示すれば割引できる機械のような物をJRの無人駅にも設置してはどうか。全国的な問題でありお願いしたい。

**【公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会 広島県支部 書記長 徳政】**

- ・24時間体制でヘルパーに来てもらっている会員が非常に多い。ヘルパーの方にしか話す機会が無く、家族を養っている方と会うと、本人が気遅れを感じる事がある。
- ・24時間寝たままの方や、コロナ禍で仕事を失った人が「自分の価値をどう見出すのか」悩み、会をやめていく人も非常に多い。

- ・JRの券売機は電話が繋がるのに1時間掛かり乗れなかった。非常に良いシステムだが、是非改善していただきたい。

**【特定非営利活動法人 障害者生活支援センター・てごーす 副代表 畑】**

- ・私達の団体も24時間の介助を使い生活しているが、運転手や店員から声をかけるのは介助者に対してである。本人に声をかけてほしい。「当事者に聞いて」「合理的配慮をきっちり行って下さい」と言う。
- ・日常生活で良かったことは、手動式ドアを開けてくれることや、レジで会計後、買い物かごを袋詰め用の台に持って行ってくれること。介助者も負担が軽くなる。
- ・「心のバリアフリー」は共に教育を受け、共に育ち、施設や親元でなく地域で自立生活をするにより自然に根づいていく。

**【公益社団法人 認知症の人と家族の会広島県支部 副代表 浦宗】**

- ・認知症の方が外出することは少なく、公共交通機関に乗ることも少ない。
- ・バス停に車両を丁寧に着けてくれて助かる。乗務員の案内も丁寧でありがたい。
- ・運転手がトイレに行きたくなり通勤時間帯にドアを開けたまま待たされた事があるが、降車処理ができず急ぐ人も降りられなかった。こうしたことが無いようお願いしたい。

**【公益社団法人 広島県パラスポーツ協会：（欠席）事務局代読】**

当協会は障害がある方のスポーツ活動の普及推進を主な目的としている。各事業を通じて県民への啓発活動を行っており、パラスポーツを通じて障害のある人・ない人が交流を通じて相互理解を行うことで心のバリアフリーに貢献したい。

**【中国バス協会 業務係長 中村】**

広島市中心部で同一名称のバス停が複数分散。八丁堀バス停と紙屋町バス停が複数あり、利用者にとってわかりにくい。当協会と広島市、バス停上屋を設置する広告会社とで連携して、あおぞら銀行前に集約予定。その際はバス停の形状を切り込み型からストレート型にし、正着率を向上させることによって乗降の円滑化に配慮する。

**【中国旅客船協会 事務局次長 三好】**

宇品～松山航路にユニバーサルデザインのクルーズフェリーが導入され、旅客ターミナル第一棧橋にボーディングブリッジが設置される。ターミナルから旅客船に直接接続され、段差無く乗下船できる。天候にも左右されず、大きな荷物を持った方やお子様連れも含め、乗降の円滑化を図る事ができる。

**【広島難病団体連絡協議会 会長 西河内】**

（障害が）外から分からないので、理解してほしい。少なくとも行政に関わる人たちは理解しようとする姿勢を持ってほしい。行政機関の行う研修は内容が伴っておらず、当事者の話をよく聞く機会を持ってもらいたい。

**【特定非営利活動法人 障害者生活支援センター・てごーす 副代表 畑】**

（本省）資料に「ワーキンググループを複数回行う」ということがあり嬉しく思う。

（資料で）意見のあった（分科会）複数回開催について事務局から回答。

**【中国運輸局 交通政策部 バリアフリー推進課長 大谷】**

- ・本会議の複数回開催については他の地方ブロックの状況を踏まえ検討予定。
- ・現時点では複数回開催の代わりに、隔年で各県単位のバリアフリー等地域連絡会議を開催。当事者の方との意見交換会を開催している。
- ・今年度、本分科会の構成員を対象に広島市内で現地視察を開催予定（第4四半期）。会議以外に現地視察やバリアフリー教室を通し「心のバリアフリー」を推進する。

**【特定非営利活動法人 障害者生活支援センター・てごーす 副代表 畑】**

JR新井口駅について令和5年度中のバリアフリー化の話があるが、どうか？

**【西日本旅客鉄道株式会社 広島支社 調査企画室長 左山】**

施工に際し移転等しなければいけないものも多くあり、現状では何年度に完了するか確約はできない。少しでも早くできるように来年度着手に向け運輸局さま、広島市さまと調整を進めていきたい。

**【神田分科会長 （意見まとめ）】**

1つ目。「相互理解を進める」ということを今後大きな柱として考えて行く必要がある。設備や整備、対応を含め、立ち位置により色々な課題が見えることが分かった。

2つ目は多様性の話。色々要望が出るのは「それだけ障害が多様である」ということの理解を深めなければならない。国や自治体、事業者がバリアフリー教室をする際には、車椅子や視覚障害に加え、ヘルプマークや障害の多様性について、より視野を広げた教育を行わねばならない。その際、当事者の方々の話を聞いて「共に学ぶ」事をうまく取り込んで行ければよい。

3つ目は新しい技術について。コロナ禍の中、合理化と共に色々な技術が入ってきている。過渡期では技術が先行しすぎ使いにくい事があるが、途中の段階で当事者の方々の話を丁寧に聞く場を設ければ、技術の進化を使えるものにしていけるのではないか。現場見学会等でPRすると普及啓発にも繋がる。効果的、効率的に行きたい。

最後に、「居場所」の問題を「交通」の中でどう考えるか。「ゆっくりでいいですよ」という運転手の声かけを、中国地方のキーワードにできないか。声をかけると同時に、背景まで理解し相手を思いやる、直接当事者の方々に話しかけるという所に繋がり、やがて社会の中での包容度を上げていくことに繋がる。多様性の話を含め浸透させ、共通理解として行ければよい。行政や事業者がバリアフリーの啓発やPR等の中にそうした事を入れるだけでも、社会全体が交通から変わって行くのではないか。